

タイトル	タンザニアの人と私たち ～文化の違いと支援のかたち～		
氏 名	前田 久三代		
学 校 名	奈良教育大学附属中学校		
担当教科	理科		
実践教科	理科	時 間 数	8時間(2時間×4クラス)
対象生徒学年	1年生	対象人数	146名

カリキュラム案

(1) 実践の目的

- ・タンザニアについて知り、日本との違いについて考えることで異文化理解を深める。
- ・援助の方法について考え、青年海外協力隊の活動を知る。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ：タンザニアを知る ねらい：タンザニアを知り、興味をもたせる	(1) Google Earthを見て、タンザニアの位置を知る。 (2) タンザニアの写真を見て、班ごとに話し合い、タンザニアの生活について知る。	(1)Google Earth (2)タンザニアの写真、物品等(資料1)
2 限目 テーマ：「違い」からはじまる援助のかたち ねらい：日本とタンザニアを比較し、あってはいけないちがいの解決方法を考える	(1) 4人班で話し合っ、「大切なもの」(家族、友達、お金、宗教、勉強、仕事)を、大切な順に並べ、タンザニア人の結果と比較する。 (2) タンザニアのことが書いてあるカードと日本のことが書いてあるカードを分類して「あっていいちがい」「あってはいけないちがい」に分類する。 (3) あってはいけないちがいをなくすために自分たちにできることは何かを考える。 (4) 援助の一例である協力隊員のビデオを見る。	(1)ワークシート(班に一枚)(資料2) (2)カード18枚(資料3) (4)奈良テレビ番組DVD

実践授業の詳細

<1 限目>

(1) Google Earthを見て、タンザニアの位置を知る。

Google Earth で日本を見せ、タンザニアまで移動していき、拡大して首都の位置などを確認した。

(2) タンザニアの写真を見て、話し合い、タンザニアの生活について知る。

フォトランゲージという手法を使い、タンザニアについて教えることにした。

まず、4人班10班に一枚ずつ写真を配り、何の写真か考えさせた。次に写真と同じ画像をテレビに映していき、自分の班の写真が写った班に何の写真と思うか答えさせた。マサイ族の写真を見せたときは、現地で買ってきたマサイ族の服を紹介するなど、時には実物を見せ、時には自分の経験や思いを交えながら話をした。生徒たちはよく話を聞き、発言していたので、興味を持ちながらタンザニアについて知ることができたと思う。

<2 限目>

(1) 4人班で話し合って、「大切なもの」(家族、友達、お金、宗教、勉強、仕事)を、大切な順に並べ、タンザニア人の結果と比較する。

日本の中学生に「大切なもの」の順位を考えさせた結果、次のような結果がもっとも多かった。

1位: 家族 2位: 友達 3位: お金 4位: 仕事 5位: 勉強 6位: 宗教

もちろん班ごとに多少のばらつきはあったが、家族や友達が1位、2位を占め、勉強が5位で宗教が6位という傾向は強かった。

タンザニアの学校で「大切なもの」の順番を尋ねるアンケートを行った結果は、

1位: 勉強 2位: 家族 3位: 宗教 4位: 仕事 5位: お金 6位: 友達

であったことを公表すると、「ええ〜!」「全然ちがう〜!」声があがり、生徒たちはとても驚いていた。この結果について感じたことを話し合わせたところ、次のような意見や感想が出た。

- ・日本人もタンザニア人も家族を大切にしているのは同じだと思いました。
- ・生きのびていくためには勉強が大切なのだと思いました。
- ・友達の順位が低くて驚きました。
- ・宗教を大切にすることは、世界では当たり前のことなのかもしれないと思いました。

この結果には大きな反響があり、生徒たちはかなり驚いたようだった。授業者としては「日本人とタンザニア人、似ているところと違うところがあることを知る」ことで、次の展開に繋げようと思っていたので、それについては達成できたと思われた。

(2) タンザニアのことが書いてあるカードと日本のことが書いてあるカードを分類して「あっていいちがい」「あってはいけないちがい」に分類する。

用いたカードは18枚(カードの内容はP41参照)。まず、日本のこと、タンザニアのことに分けて並べ、それぞれのカードがペアになっていることに気づかせる(ペアの例:①マラリアという病気にかかることがあると②マラリアという病気にかかることはない)。次に、どのペアが「あってもいいちがい」でどのペアが「あってはいけないちがい」なのかを分類させた。

分類した結果の中で、どちらにも分類しにくいものについては少し解説を加えたが、深く考える時間はとれなかったため、今回の授業では自分たちが思う方に分類してよいことにした。この活動で生徒たちは、発展途上国と先進国の間には「あってはいけないちがい」が存在することを知り、それをなくす手だてを考えるきっかけとなった。

(3) 「あってはいけないちがい」をなくすために自分たちにできることは何かを考える。

班ごとに話し合ったところ、次のような意見が出た。

- ・寄付金をわたす、募金をする
- ・先進国の人が技術を教えに行く
- ・先進国でいらなくなった物を送る
- ・(飢餓をなくすため)畑をつくる

初めて援助について考える機会であったため、自由に発想できることを重視した。自分たちが優位に立っているような表現をする班があったことは少し気になったが、彼らなりによく考えているようだった。

(4) 援助の一例である青年海外協力隊のビデオを見る。

援助の方法を話しあったところで、その一例として日本がJICAを通して行っている援助を紹介した。同行テレビ局(奈良テレビ放送)が放送された、タンザニアでの協力隊員の活動(約5分)を見せ、今自分たちにできることを考えさせた。その一部を次に示す。

- ・募金をする
- ・将来自分が隊員として途上国に行く
- ・できるだけ多くの人に現状を伝え、もっと援助できるようにしてもらう
- ・その国の状態を知ることが大切だと思う

「募金をする」「将来隊員になる」という意見は予想できたが、「知ること」「伝えること」など、広い視野をもって考えられている生徒も多かった。

実践授業を通して

やっとの思いで時間を確保して授業を行ったので、自分が伝えたいことの中のほんの少ししか伝えられず、少し悔しいと感じている。しかし今学期の授業のふり返りを書かせた際に「理科だけでなくタンザニアの話もおもしろかった」「文化の違いにおどろいた」などの言葉を書く生徒が予想以上にいたので、生徒たちは一生懸命学んでくれたのだらうと思われる。

先進国と発展途上国、人間としてどちらが優れているかなど言い切れないはずなのに、発展途上国に対する「優越感」を拭いきるのは難しい。自分自身、インドで1年間ボランティアをしてきた経験があるため、生徒の発言や文章で悪気のないところに心が痛む。「自分たちのいない物を送ったらいい」そんな一言でも。それは確かに援助にはなるのだろう、でも誰だって新しくきれいな物が欲しいと思うのではないだろうか。

今回の実践では自由に考え、話し合い、意見を言うことを大切にしたので、そんなことに深く踏み込まなかったが、来学期の授業で深く話をしていきたいと感じている。

自分が生徒たちに何を伝えられるか、まだまだ試行錯誤しているところである。

●授業風景



フォトランゲージ



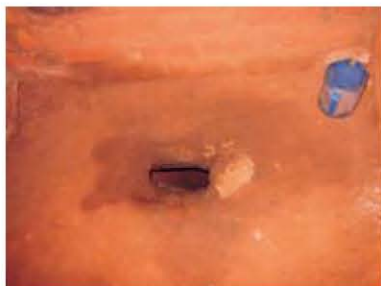
「大切なもの」の順位をつける



「あってもいいちがい」「あってはいけないちがい」を分ける

●資料

資料1：フォトランゲージで用いた写真



資料2: 2限目ワークシート

2限目 ワークシート

「違い」からはじまる援助のかたち
 前の時間に、タンザニアとはどんな国なのかを知ってもらいました。
 今回は、日本との違いや、日本の援助について学習します。

①みんなにとって、どれが大変ですか？
 紙で考えて、1位から6位まで順位をつけ、() 内に書きましょう。
 疾病 (1位) 交通 (2位) お金 (3位)
 仕事 (4位) 地理 (5位) 宗教 (6位)

タンザニアの学校で同じアンケートをしました。その結果について、どう思いましたか。
 紙で出た意見を書きましょう。

・お金の位が高かった。
 ・宗教も大切になっている。
 ・物価が安い。1人で何人か養育する。
 ・学校が遠くにある。

②タンザニアと日本の違い
 1. 紙ごとにタンザニアや日本のことを書いたカードを配ります。カードの内容を読んで、タンザニアの
 ことと日本のことと分けてください。
 2. 分属したカードの中で、「あっていい違い」「あってはいけない違い」に分けてください。

「あってはいけない違い」と思うのはどのカードですか？(書き方例: ①と②)

①と② ③と④ ⑤と⑥ ⑦と⑧ ⑨と⑩ ⑪と⑫
 ⑬と⑭ ⑮と⑯ ⑰と⑱ ⑲と⑳ ㉑と㉒

「あってはいけない違い」をなくすために何をしたらいいと思いますか。紙で出た意見を書いてください。

・見えないお金の差が大きい。お金の差をなくす。
 ・学校を減らす。
 ・

③日本が行っている援助について
 ビデオを見て、自分たちに今できることは何だと思いましたか。紙で出た意見を書いてください。

・例: 教科書や机、机をタンザニアに送る。
 ・
 ・

3学期に、国際理解学習をします。自分と世界のかかり方について、多くのことを受け入れ、広い視野を
 もって考えられる人になってほしいと先生は思っています。

資料3: 「あっていいちがい」「あってはいけないちがい」を分けるカード

①マラリアという病 気にかかることが ある	⑤信じている宗教が 特にない人も多い	⑩井戸までは遠い	⑭国の人全員が字を 読める
②マラリアという病 気にかかることはな い	⑦トイレではトイレ ットペーパーを使う	⑪トイレではトイレ ットペーパーのかわ りに水を使う	⑮理科の実験ができ る
③字が読める人は7 割程度	⑧50人分の机とイス に、80人が入っ て授業をうけている	⑬信じている宗教が ある	⑯チョコレートを食べ る
④とうもろこしの粉 をすりつぶしたもの (ウガリ) を食べる	⑥米(ジャボニカ米) を食べる	⑫じゃ口をひねれば 水が出る	
⑤チョコレート材 料(カカオ)を育て る	⑭理科の実験ができ ない	⑯教室には一人ひと りずつ机とイスがあ る	